

# エコ. エコ (ecology. economy)

## 特定非営利活動法人 エコ. エコ

### 多様なハンター「クモ」

日本蜘蛛学会員 新井浩司

クモという生き物は、「地上のあらゆる場所に生息し、世界で47000種以上、日本で1600種以上いる。」「生態系において、主に昆虫類等を捕食し、低次消費者の爆発的な繁殖を抑える役割を担っており、鳥や両爬などに捕食され、高次消費者の貴重な食料としても役立っている。」「農地に居ても人家に居ても、いわゆる害虫抑制の効果が有る。」「それぞれの環境毎に見ると、種構成が大きく違い、今後の研究次第では、環境指標生物としても使える可能性も秘めている。」等々、色々言える事は有ると思います。

ただやっぱり、理屈じゃ解っていても「クモは苦手!」とか、「難しい話は嫌!」というかたもいらっしゃるかも知れませんか? まあそれもよく解ります。そうでなくもっと単純に、感性で「面白い」と思って貰えそうな部分として、私がお勧めなのは、「狩りの瞬間の観察」です。その一部を御紹介して行きましょう。

クモの半分くらいの種は、獲物を捕らえる為に網を張りますが、それらの種は、糸を伝わる振動で詳細に物事を察知しています。ただ、目はあまりよく見えません。

「コガネグモ類」は、円網を張ります。網に獲物がかかると、素早くその位置に接近し、包帯のように真っ白に糸でグルグル巻きにして捕らえます。

「ヒメグモ類」の多くは、不規則網を張ります。地面等に接する部分にだけ粘着力が有り、歩行して来た虫などが触れると、その糸が虫の体に付着します。クモはその糸を伝って、獲物に更に糸を付着させ、上方へ引っ張って糸を固定します。これを繰り返して、何本も糸を追加して張力を高め、最終的にはクレーンのように吊り上げてしまいます。



オオヒメグモ♀が、不規則網の糸が付着したワラジムシに、糸を追加して行く。これを繰り返して、上方へ吊り上げてしまう。



コガネグモ♀が、円網にかかったバッタに駆け寄り お尻の糸疣から無数の糸を帯状に広げ 真っ白に包み上げてしまう。

「ハエトリグモ類」は、網を張らないクモの代表的な仲間です。クモの中でも群を抜いて発達した、その「視力」と「跳躍力」が武器です。動く獲物を目で追い、離れた間合いからジャンプして捕らえます。



ヤハズハエトリ♀の跳躍の様子。獲物を捕らえたウススジハエトリ♀。ヘッドライトのような眼もハエトリグモ科の特徴。

#### 観察会予定

- ◇9月16日 バッタ選手権 (第62回)
- ◇8月19日 ナイトハイク クモを見つけよう (第61回)
- ◇8月5日 夏の虫探し (第60回)
- ◇7月29日 ナイトハイク セミの羽化を見よう (第59回)

「カニグモ類」も、網を張らない仲間ですが、動き廻らず、花や葉等でひたすらじっと待ち伏せ、蜜を吸いに来たり、翅を休めに来た獲物が、目の前に来た瞬間に、発達した前脚で抱え込んで捕らえます。

ヨコバイを捕らえたハナグモ♀。ハエを捕らえたコハナグモ♀。カニグモ科は、前2対の脚が発達し、後2対の脚が矮小化している。\*「ヤマシログモ類」は、牙の根元付近から粘液を発射出来る という能力を持っています。近くの獲物へ、口の方から粘液を吐きかけて 動きを封じて捕らえます。



「トタテグモ類」は、土の中に住んでいる原始的な仲間です。穴を掘って、糸で裏打ちして扉を造ります。近くを虫が歩いて来ると、いきなりビックリ箱のように蓋が開いてクモが飛び出して来ます。そのまま中に引き込んで捕食します

歩行して来たオカダシゴムシを捕らえるキシノウエトタテグモ♀。クモ本体の姿を見られるのは、ほんの一瞬。

「ハシリグモ類」は、水面に浮く事が出来る、網を張らないクモの仲間です。アメンボのように水上を自在に走り回れるので、水辺に適応している種も多いです。大型種なので、水中のオタマや小型のカエル等も捕らえてしまう事があります。

ヒキガエルオタマを捕らえたイオウイロハシリグモ幼体。アメリカザリガニを捕らえたアオグロハシリグモ♀。



「イセキグモ類」は、「投げ縄蜘蛛」としても知られています。夜行性で夜になると、粘球の付いた糸をぶら下げます。特定のガのフェロモンに似た物質を放っているのので、♂のガが寄って来ます。すると投げ縄を振り回し、粘球をぶつけて捕らえます。

ムツゲイセキグモ♀が、投げ縄をぶら下げ待機。投げ縄にかかったヤガ科の一種を手繰り寄せて捕らえた所。

「ヤマシログモ類」は、牙の根元付近から粘液を発射出来る、という能力を持っています。近くの獲物へ、口の方から粘液を吐きかけて、動きを封じて捕らえます。



ユカタヤマシログモ♀が、近付いたチョウバエに、粘液を吐きかける。チョウバエは 脚も翅も粘液で固定されてしまう。

その多彩且つ巧妙な捕食戦術の数々は、見ていて「凄い技を使うヤツらだ！」と感心してしまうような者ばかりですが、実は見ようと思えば何処でも誰でも観察可能な者も多いのです。

見沼でも現段階で100種以上見られ(まだ増える予定)、絶滅危惧種や珍しい種もいくつか確認していますので、また機会を見て、そういったクモの話にもふれたいと思っています。

○定例保全作業は第2木曜日・第3金曜日に行います。初めて参加する場合は作業日の3日前までにメール (kaerunomaru@gmail.com) またはFAX (048-874-9811) で申し込んでください。

NPO 法人エコ。エコは生物多様性の保たれる空間が広がることを活動の目的にしています。

活動を御支援ください NPO 法人 エコ。エコ

問い合わせ先 メール kaerunomaru@gmail.com

Tel&Fax 048-874-9811 (加倉井)

寄付送金先 エコ エコ 郵便振替 0110-0-711005

